

## 2021年度 豊中市人権教育推進委員協議会 活動方針

人権協結成50周年という2020年は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため二度に渡る非常事態宣言が出されました。東京オリンピック・パラリンピック大会を始めとして、あらゆるイベントが中止または延期されるなどの自粛要請がなされ、手洗いマスクの励行、不要不急の外出制限など、大きく市民生活も様変わりをしました。

また、コロナ禍での偏見や差別、生活困窮者や失業者の増加、子どもの貧困などが拡散され、児童虐待144,000件、自殺者21,081人、うち小中高校生の自殺者499人と事態は深刻です。(3月17日厚生労働省・警察庁発表)

人権協も総会や参与の会、地区現地研修や駅頭活動などの大半が中止になりました。厳しい状況下におかれましたが、「市民の集い」は感染防止対策を最優先に粛々と実施することができました。

五中校区の意見発表では、校区につくられた児童養護施設「翼」についての報告でした。施設では「ライフ・ストーリーワーク」「権利ノート」など聞きなれない言葉ですが、自主性や自己肯定感を高める人権教育が基本理念にあることを知りました。シンガーソングライター佐藤竹善さんによる記念講演、50周年記念にふさわしい彩(いろどり)を添えていただきました。竹善さんの柔らかい歌声、池田なみ子さんとの軽妙な対談は、コロナ禍にあって清爽(せいそう)な一陣の風が会場を満たしました。

延期された東京オリン・パラリンピックが7月に予定されています。オリンピック組織委員会会長は、残念な女性蔑視発言により辞任しました。さらに開会式の演出をめぐる総括担当が出演予定者の容姿から「オリンピック(豚)」というキャラクターを提案、一蹴されたものの機能しないガバナンスに批判が殺到しました。

オリンピック憲章はスポーツを通じて、ジェンダー平等、調和と多様性、人間の尊厳を保つことに重きをなします。スポーツが人権の実践と言われる所以(ゆえん)です。

人権協の活動とオリンピック精神は理念を共有しています。2021年度はコロナ感染収束を願いつつ、人権協の活動もオリンピック精神に共感する活動として、思いを新たに学びのきっかけにしていきましょう。

### 1. 基本として

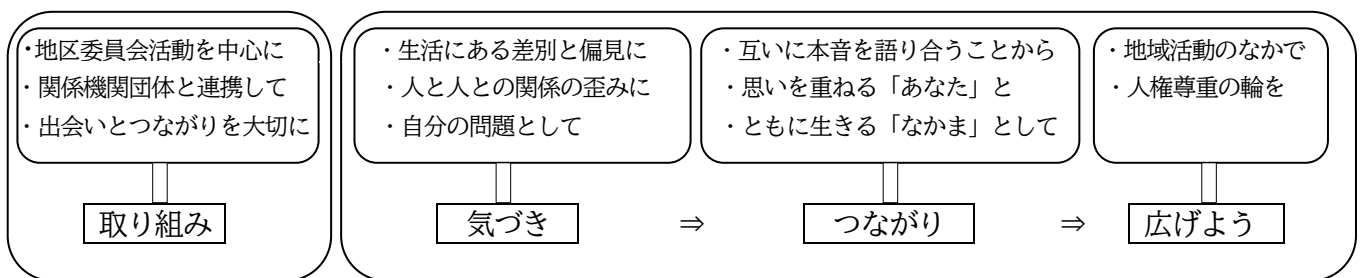
- ◎ 人権文化のまちづくりをすすめよう
- ◎ 人権意識をより高めよう
- ◎ 人権尊重の輪を広げよう

### 2. 重点行動として

- ◎ 地区委員会活動の語り合いから、人との出会いとつながりを広げよう
- ◎ 歴史に学び現実を知ることから、人権意識をより高めよう
- ◎ 世代を越えたつながりから、人権の輪を広げよう

### 3. 目標

- ◎ 組織として
- ◎ 委員として



### ◎ 研修のねらい

#### ① 身近な人権問題について考えよう

- ・「子どもの命・人権」を大切にしまちづくり
- ・さまざまな根強い差別意識と人権問題について
- ・障害者・女性・高齢者・在日外国人の人権について
- ・「みんな違ってみんないい…人権と共生」について
- ・ネット社会における問題について
- ・豊中市における同和問題の解決を図るための具体的な教育啓発の進め方について(答申)

#### ② 人権の歴史に学び差別の現実を正しく理解しよう

- ・憲法の基本原則(国民主権・戦争放棄・基本的人権)について
- ・戦争と平和と人権の歴史について
- ・「人権文化のまちづくりをすすめる条例」について
- ・国民的課題である部落問題の解決と私たちの生活について
- ・障害者差別解消法・ヘイトスピーチ解消法・部落差別解消法について